

取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 6号

2012/7/9 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、コートジボワール・カカオ豆産地 一層の日照り必要 12/13 メインクropp (7/2)

農家とアナリストは2日、コートジボワールのカカオ豆生産について、2012～13年度のメインクroppのカカオ豆生産には一層の日照が必要になるとの見方を明らかにした。先週は豊富な降雨に恵まれた。ミッドクropp（4～9月）の生産は峠を越えており、その後のメインクroppにとっての天候が注目されている。

農家によると、メインクroppは開花時期を迎えており、開花を促進させるには、7月は降雨と晴れの入りが交じる天候が極めて重要になるという。国内生産の4分の1を占めるダロア地方*では、降雨と日照が入り交じった天候に3度恵まれたとの報告があり、メインクroppの作物にとって良い天候状態とみられている。

*●**ダロア (Daloa)** は、コートジボワール中部にあり、高ササンドラ州の州都。人口は10万人以上とみられる。周辺にカカオ生産地域が広がっており、カカオ生産・流通の中核となっている。



出典：ウキペディア

2、アジア・ココアバターのリシオは夏の小康期にも変化せず (7/6)

- ・ココアバターのリシオは、ロンドン市場価格に対して 1.0~1.05
- ・米国、欧州市場の夏休み時期の需要は減退
- ・ココアパウダーの市場価格は\$3,700~\$4500/MT のレンジ

今週、ココアバターの取引は、夏休みシーズンの需要減退を背景にロンドン市場カカオ豆の価格と同様レベルで若干の弱含みで取引されたとアジアのカカオ加工業者筋から報告された。

ココアバター価格はロンドン市場価格に対して、1.0~1.05 と先週と変化がなかったが、5月にこれまでで最も低い 0.8 リシオと比較すると上昇している。

インドネシアのカカオトレーダーは、現在、カカオ需要は夏季休暇シーズンで低迷しているが、1ヶ月後くらいから、年末の需要期に向けて少しずつ需要が強くなっていくかもしれないと見込んでいる。

一般的にチョコレート製造会社の需要は、12月から4月（年末年始の休暇シーズン、バレンタインデー、イースターの時期）が高く、その後は減退する。

また、インドネシアのトレーダーはまた、ラマダン向け*の需要・製造は既に終了したと伝えた。

カカオ豆は、加工され、ココアバターとココアケーキに分けられ、更にココアケーキは、ココアパウダーに微細化され、チョコレートのコーティングや、飲料、アイスクリームなど多様な用途に使用される。一方、ココアバターの価格は、ロンドンの市場価格に関連しながらも、実際には、加工業者が市場価格に掛け算する“リシオ”を決定しており、価格の下落は直接的な需要の影響ではなく、どちらかというところ、心理的要素も大きいとシンガポール系のトレーダーは言う。より多くの加工業者がココアバターを売りたいと集中すると、多くの需要者が価格の下げを待つようになり、価格が下落していく傾向にある。現在アジアでのココアパウダーの価格は最安値\$3700/MT から\$4500/MT のレンジである。

インドネシアは現在世界第3位のカカオ豆輸出国。同国の主要産地であるスマトラ島の Lampung 州からのカカオの 2012 年 1-6 月のカカオ輸出数量は 8,697 トンで 2011 年の同時期 19,131 トンと比較し、55%減となっている。*スマトラ島の Lampung 州の位置関係は下記の緑の南端部分



*出典ウィキペディア

*一般にラマダンは断食と認識されているが、食事が夜食に限定されるため、一般的に食品が通常より売れるとされている。

3、バリーカレボー、第3四半期の販売を6.5%成長と下方修正報告(7/5)

- ・バリーカレボー第3四半期は、6.5%成長であった。
- ・欧州の落ち込みを、米国、アジア市場の拡大で補完
- ・株価は3.2%下落（産業平均では0.3%成長に対して）

世界最大のチョコレート製造会社であるバリーカレボーは、第3四半期はこれまでの第1～第2四半平均の6.7%成長から6.5%成長に減退したものの、本年の業績目標は到達可能との見解を示した。

バリー社は、今年、世界第3位の消費財グループのユニリーバグループの使用するカカオ・チョコレート需要の70%を供給する大型契約を獲得するなど、新たにいくつかの大きな委託生産契約を結んだ。一方で大型契約が増えたにもかかわらず、第3四半期の数字が伸びなかったという発表は市場には悲観的にとらえられ、株価については3.2%下落した。

また、世界的な大手チョコレート最終製品の製造企業である、ネスレ社、ハーシー社、クラフト社は2012-2013を通じた財務的目標値として、販売量と税引き前利益で6-8%の成長の達成を其々に公言している。

しかしながら、バリー社は今年の世界全体のチョコレート需要は当初1%成長と予測していたが、その達成は難しくなった可能性もあり、0.5%～1%の範囲で、正確に予測するのは難しいとしている。

バリー社自身の2011/2012年の業績は、10月から6月末までの9ヶ月間で米国、アジア、東欧市場の販売が二桁成長し、引き続き低迷している欧州市場の落ち込みを補った形となっている。特に米国のグルメ市場自体に回復の兆しが見えてきており、二桁の成長となっているとともに、またアジア各国ではこれまで拡張してきたシンガポールやマレーシア工場を拠点とした生産契約が売上増加に貢献していると分析した。

参考 バリー社の時価総額は約US\$46億（約3680億円）である。\$1=¥80換算

4、コートジボアールのカカオ豆集荷数量1,259,000トンに達する(7/9)

コートジボワールの港への2011/2012シーズンのカカオ豆の集荷数量合計が7月8日までの段階で1,259,000トンに達したことが輸出業者筋の算出で判明した。これは昨年同時期までの集荷数量は1,310,614トンであった。

また、7月2日～8日までの1週での西アフリカでの最大港であるアビジャン港とサンペドロ港に集荷された数量は21,000トンで昨年の同時期の24,897トンと比較し減少した。

5、Bahia州へのカカオの集荷状況－倉庫の在庫過多により遅延済み(7/5)

ブラジルカカオの最大の生産地であるBahia（バイーア州）へのカカオの集荷が、これまで数週間の豊富な集荷数量が続いていたが、先週より庫の在庫スペースがなくなったことにより、集荷のペースが遅延している。

また、収穫ペースも6月にBahia州で数日間行われる地元の大きなお祭りの影響で停滞している。得に在庫スペースの問題については、他のカカオ生産州でも同様に生じている模様。

2012年5月より7月1日までのブラジル全州でのカカオの集荷数量は108万バック（1バック=60kg）

=64,800 トン となっており、昨年同時期での比較では約 2 倍近いペースとなっている。今週の Bahia 州への集荷数量は 88,003 バックとなっており、先週の 114,000 バックから減少した。農家からの出荷価格は 1 バック当たり今週 74-78 レアル (\$36.66-\$38.65) で先週の 76-78 レアルとほとんど変化がなかった。(\$1 = 2.0180 レアル)

《2012/13 着荷数量 IN 60-KG BAGS》

	<u>先週 1 週間</u>	<u>合計 (2012 年 5 月より)</u>
Bahia	88,003	754,445
Other states	34,257	327,817
Total	122,260	1,082,262

《2011/12 着荷数量 IN 60-KG BAGS》

	<u>先週 1 週間</u>	<u>合計 (2011 年 5 月より)</u>
Bahia	94,803	580,375
Other states	29,602	153,005
Total	124,405	733,380

参考) Bahia 州の位置関係



Bahia 州は左記の地図の赤い部分に立地する、ブラジル北東部、大西洋岸にある同国内で人口 4 位、面積 5 位の州である。

人口では、サンパウロ州、ミナス・ジェライス州、リオデジャネイロ州に次ぐ・

出典：ウキペディア

以上

*ニュースソースは特記がない場合以外は、ロイター通信社の情報を加工し提供しています。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田 TEL03-5783-3545

メールアドレス：w-ikuta@tachibana-grp.co.jp